

こまやきば 駒焼場遺跡 第3次調査

所在地	二戸市金田一字駒焼場
調査原因	公共下水道事業に伴う緊急発掘調査
調査期間	平成25年9月25日～10月11日
調査面積	約160㎡
主な時代	奈良、平安
主な遺物	土師器

①遺跡の説明

駒焼場遺跡は、金田一温泉駅の東側、馬淵川左岸に位置する遺跡です。これまで国道4号線二戸バイパスとバイパスから金田一温泉駅へ通じる市道駒焼場線の建設に伴う2度の発掘調査により48棟の竪穴住居跡が確認されており、奈良時代から平安時代にかけての集落跡であることがわかっています。また、集落を囲む4本の大溝が確認され、外敵侵入への防御性を有した集落であったと考えられます。

②調査の内容

調査は公共下水道本工事の掘削幅にあわせ概ね1m幅で行いました。調査区の狭小きょうしょうさに加え、水道管の旧管や排水管の埋設によりすでに大きく破壊されていることもあり、遺構の全体的な把握は困難なものでした。確認された遺構は竪穴住居跡4棟、溝跡1条、土坑2基、不明遺構1基があり、溝跡はバイパス調査時に確認された大溝の延長部分と考えられます。1棟の竪穴住居跡の東壁際に設けられたカマドには、壊れた土器を逆さにして煮炊き用の土器の台（支脚）として使用していた状況が確認されました。

③調査の結果

今回の調査では住居跡や溝跡が確認され、過年度調査で確認された駒焼場集落の広がりを確認することができました。

住居跡には炭化した木材が出土したものもあり、これは建物の上屋部分の建築部材と考えられ、過年度調査でも同様の堆積を持つ建物が確認されており、

一部の集落が戦火あるいは失火により、火災にあったことがわかります。

